

2019.12.5

NPOフォーラム・だより No.90

NPO法人安房文化遺産フォーラム（代表 愛沢 伸雄）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX : 0470-22-8271

Eメール awabunka.npo@gmail.com 公式サイト http://bunka-isan.awa.jp



会員・寄付募集中！

年会費＝正会員 A:2,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:1,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO法人安房文化遺産フォーラム）

<台風災害お見舞い&御礼>

令和元年9月9日（月）未明、竜巻を伴う強大な台風15号が房総半島を直撃、未曾有の被害をもたらしました。さらに10月13日（日）未明に19号、26日（土）の豪雨と続き、甚大な被害に拡大しました。ご報告が遅くなりましたことをお詫びするとともに、被災した皆様には心よりお見舞い申し上げます。また温かい励ましを下された方々には厚く御礼申し上げます。

建物被害はほぼなく、1週間ほどの停電のみで、すぐ日常生活を取り戻した方もいる一方で、今なお復旧の目途が立っていない方も少なくありません。なかでも館山市富崎地区（布良・相浜）では、集落の8割くらいが家屋被害を受けており、ブルーシートだらけの景観に変わってしまい、繰り返し雨漏りが起きています。

布良崎神社では神輿蔵が潰れ、青木繁「海の幸」のモデルになったといわれるお神輿が破損し、拝殿は傾き、ご神木はじめ境内の数本が倒木しました。また、NPOの第二事務所である安房自然村・名主の館は壊潰し、整理調査中だった古文書類などの歴史資料が散乱しましたが、瓦礫や土砂のなかから1枚ずつレスキューしました。けれども、青木繁「海の幸」記念館（小谷家住宅）は瓦が20枚くらい落下したものの、3年前の開館時に全面改修していたおかげで、雨漏りもありませんでした。青木繁の複製画や寺崎武男・倉田白羊の原画なども無事でしたので、どうぞご安心ください。

当NPOの事務所も雨漏りと瓦落下により機能不全となり、北条の六軒町通りに引っ越しました。千葉銀行から旧安房南高校方面に向かって左側、館山駅から徒歩10分です。車は中央公園Pに停めて徒歩2分です。どうぞお立ち寄りください。



▲ 旧事務所 ▼ 新事務所



▲ 布良崎神社：蔵が潰れ傷ついた神輿



▲ 第2事務所 で古文書レスキュー



▲カビの蔓延した天井板をはがすボランティア

旧安房南高校木造校舎も被災して雨漏りがひどく、応急工事がされましたが、連続した台風で被害が拡大しました。10月27日に当NPOの委託で予定されていた見学会も中止となりました。「安房高等女学校木造校舎を愛する会」では、校舎内の掃除を希望していますが、安全確保が困難なため、管理者の千葉県からまだ許可がおりていません。



愛沢伸雄（代表）病氣療養のお知らせ

7月下旬に心筋梗塞を発症し、救急搬送され、8月15日に心臓の冠動脈バイパス移植手術を受けました。退院直後に台風15号が起き、幸い自宅は無事でしたが、猛暑のなか1週間の停電で体力低下。その後少しずつ回復していますが、今なお自宅療養中です。もうしばらくご心配をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

＜安房フォーラム支援隊＞

私たちは、国際 NGO オペレーション・ブレッシング・ジャパンや CWS、CRASH ジャパン、広島災害対策室・・・などのキリスト教系の災害ボランティア組織と協働し、年金者組合安房支部などのネットワークとともに「安房フォーラム支援隊」を9月20日に立ち上げました。東日本大震災をはじめ大阪・広島・熊本など各地の災害支援で活躍したチームリーダー2人が約2か月にわたり常駐し、国内外より代わる代わるボランティアの皆さんが駆け付け、濡れた畳や布団・瓦礫の搬出、カビ掃除、倒木の撤去、炊き出し、傾聴・・・など約200件におよぶ様々な作業に貢献して下さいました。

また、「安房・平和のための美術展」や「ウガンダコーヒーキャンペーン」の協力店舗と顧客の皆様はじめ、会員や関係者の皆様から、安房の復興のために温かい支援金をお寄せいただきました。心より感謝申し上げます。

＜屋根プロジェクト＞

安房地域では、屋根が飛んだり瓦が壊れたりしていて、多くの住宅が被害を受けました。応急措置のブルーシートを何度張り替えても強い風に剥がされて、繰り返し雨が漏り・・・、修理工事は1年待ちという方も少なくありません。その間、深刻な状況が続き、カビの蔓延による健康被害も心配されています。

そこで「安房フォーラム支援隊」では、工事を待つ間のブルーシートに代わる方策を検討し、「屋根プロジェクト」を企画しました。壊れた瓦を屋根から下ろし、野地板を補修し、粘着型ルーフィング（防水シート）を貼るという方法です。トタン屋根の場合は、損壊箇所に貼り付けるだけで済みます。1年くらいは耐久性があると考えられ、本工事の際には上から屋根材を取り付けることも可能です。この支援基金はキリスト教系の諸団体が国内外より募ってくださり、広島若い大エチーム6人が約1か月半にわたって館山に滞在し、モデル的に施工してくれました。

サポートを受けた住宅の方たちは、雨漏りの心配がなくなったと喜んでます。このプロジェクトは12月下旬に終了しますが、その前にこの方法を多くの人に伝え、ブルーシートの不安から解消されるよう、講習会を企画しました。安全な作業のために、簡易足場の組み方も指導します。ぜひご参加ください。

～ブルーシートより安心！～

＊ルーフィング講習会

日時：12月14日（土）10時

集合：布良漁協前（館山市布良 1293）



第25回

安房地域母親大会

～いま、安房のわたしたちができること～

日時：12月8日（日）
13:30～16:30

会場：千倉保健センター
資料代：500円

第一部：緊急報告

- 「台風15号・19号からの復興」
- ・池田恵美子（安房 F）
- ・笹生あすか（鋸南町議）
- ・八木幸枝（やぎ農園）

第二部：講演

- 「農業の再生と食の安全」
- ・鈴木宣弘氏
（東京大学農業経済学教授）

房日新聞 2019.12.3付



補修が完了した建物を視察する関係者＝館山

予定している。同NPOは、台風15号以降に、国際NGOオペレーション・ブレッシング・ジャパンや、一般社団法人クラッシュジャパンなどのキリスト教系団体など協働で安房フォーラム支援隊を立ち上げ、これまでに176件の現場で災害支援に当たっている。同支援隊のつながりから各地の災害支援に実績のある広島県の宮内工建（川地正寛社長）が、長期化する屋根の修復に対して今回の応急措置方法を提案。先月15日から一つのプロジェクトとして緊急性の高い家屋から同社の大工6人が修理を行っ

ており、今日21日まで11件の補修が完了する予定。屋根の下ふき材に使う防水シート「粘着ルーフィング」を、野地板に貼り付けて補修。応急処置だが、▽1年ほどの耐久性がある▽屋根業者への引き継ぎがスムーズ▽風でバタバタと音がしないなど、ブルーシートを張る一般的な応急処置に比べて利点が多いという。

プロジェクトの代表を務める牧師の山尾研一氏（48）は「大工による補修は2日でいったん終了するが、この方法を一人でも多くの地元の人へ伝えたい」と語り、14日午前中に実践的な講習会を予定している。問い合わせは、安房文化遺産フォーラムの池田恵美子さん（090-6479-3498）へ。

下ふき材の防水シート活用

支援団体が屋根の応急処置で提案

NPO法人安房文化遺産フォーラムが事務局長を務める災害支援隊「安房フォーラム支援隊」による屋根補修プロジェクトがスタートし、先月29日に

関係者による進捗（しんちよく）状況の確認が行われた。屋根の野地板に防水シートを貼り付ける補修方法で、今年14日に地域住民向けの実践的な講習会を

予定している。同NPOは、台風15号以降に、国際NGOオペレーション・ブレッシング・ジャパンや、一般社団法人クラッシュジャパンなどのキリスト教系団体など協働で安房フォーラム支援隊を立ち上げ、これまでに176件の現場で災害支援に当たっている。同支援隊のつながりから各地の災害支援に実績のある広島県の宮内工建（川地正寛社長）が、長期化する屋根の修復に対して今回の応急措置方法を提案。先月15日から一つのプロジェクトとして緊急性の高い家屋から同社の大工6人が修理を行っ

ており、今日21日まで11件の補修が完了する予定。屋根の下ふき材に使う防水シート「粘着ルーフィング」を、野地板に貼り付けて補修。応急処置だが、▽1年ほどの耐久性がある▽屋根業者への引き継ぎがスムーズ▽風でバタバタと音がしないなど、ブルーシートを張る一般的な応急処置に比べて利点が多いという。

プロジェクトの代表を務める牧師の山尾研一氏（48）は「大工による補修は2日でいったん終了するが、この方法を一人でも多くの地元の人へ伝えたい」と語り、14日午前中に実践的な講習会を予定している。問い合わせは、安房文化遺産フォーラムの池田恵美子さん（090-6479-3498）へ。